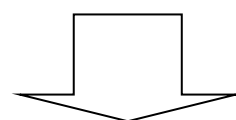


令和3年度授業改善推進プラン

教科 [数学] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。問題を解くのにかかる時間が生徒によって大きく異なっている。 基本的な内容の計算問題は多くの生徒が理解しているが、四則計算や指数を含む計算問題は式が正しく読み取れず課題がある生徒がいる。 1学期期末考査では、「知識・技能」の観点の正答率は約68%、「思考・判断・表現」の観点の正答率は約58%であった。身に付けた基本的な内容をどのように使いこなしていくのかというところに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて授業に取り組んでいる。 多くの生徒が計算や連立方程式の問題の途中式を丁寧に書いて、答えを導くことができている。 発展的な内容の問題にも意欲的に取り組み、自分がどのように考えたかを説明できる生徒がいる。一方、分からない問題はすぐ手が止まってしまう生徒もおり、粘り強く考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いて授業に取り組んでいる。 基本的な計算問題には丁寧に取り組み正確に答えを導ける生徒が多いが、反復練習をしても定着の難しい生徒がいる。 定期考査の観点別の平均正答率は、思考・判断・表現が約45%、知識・技能が約67%であった。身に付けた基礎的な内容をどのように利用していくのかというところに課題がある。 主体的に学習する生徒が少しずつだが増えている。



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 用語や要点を整理するとともに、確認できる問題を用意する。 例題を丁寧に説明するとともに、途中式も細かく書く。 問題演習の解説に力を入れていくことを今後も継続していく。 発展的な内容の課題を扱うときは、じっくり取り組めるように時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な問題だけでなく、間違いやすい問題も取り上げるとともに、その問題の解説をより丁寧に行う。 問題演習の時間をできるだけ多く作り、苦手な生徒への個別指導の時間を確保していく。 問題が早く解けた生徒には、問題集を活用し、発展的な問題に触れる機会を作る。 習熟度別少人数授業の特性を生かせるような問題を提示する。 定期考査のやり直しを踏まえて、各自がどの程度理解を深めて表現できるかを、記述式テストを実施して評価する。 授業の内容や使用したプリントなどをMe e tのクラスルームに掲示する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な例題はほとんどの生徒が授業内で理解できており、繰り返し演習していくことで理解力を深めているので、今後も途中式を書いて丁寧に解くことを意識させていく必要がある。また、黒板に解答を書かせる際にも途中式を書かせ、考え方が正しいか確認させるようにする。解法の共有の際に、式変形が正確にできているか互いに確認させていく。 互いの解法を深める時間を設けることで、それぞれの解法の良い点や改善点を検討させる。それぞれの解法の良さを認めるとともに、より良い解法を模索する時間とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎コースについては、基本の理解・定着を徹底し、繰り返し演習をさせていく。 標準コースにおいては、基本演習をするとともに、答えを出すだけでなく、その途中経過を意識させ、思考過程も解答させる。また、応用問題を多めに扱うようにする。 文章問題から式を作る際に、図や表を用いているいろいろな見方や考え方があることに気付かせる。 問題集等において、分からない問題を、答えを写して終わりにするのではなく、なぜその解答が生まれるのかを考えさせ、似た問題が出たときに解けるようにすることを指導する。 理解している内容をどの程度表現できるかを、記述式テストを実施して評価する。 授業の内容や使用したプリントなどをMe e tのクラスルームに掲示する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 例題で取り上げた問題と同じ内容の問題は、ほとんどの生徒が演習で正解できているので、繰り返し復習できる機会を設け、理解を確実なものにしていく必要がある。 文章問題から必要な情報を読み取り、問題を解くことに苦手意識をもっている生徒がいるので、どのように式を立てていくのか、詳しく解説していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中式を書くように指導し、解答の間違いを自分で見付けられるようにする。 学習した関連問題を教科書や問題集で直後にやるように指導する。 夏休み明けテストや定期考査において、必ず間違い直しをするように指導し、見直しする習慣と、分からない問題をそのままにしない習慣を付けさせる。 基礎コースでは計算など基本の定着を目標とし、既習内容の確認を行いながら反復練習の機会を設ける。 標準コースでは、応用問題を多めにし、難問も扱うようにする。 あらかじめ課題を提示し、各自がどの程度理解し表現できるかを、記述式テストを実施して評価する。 授業の内容や使用したプリントなどをMe e tのクラスルームに掲示する。